

B型肝炎母子感染防止事業実態調査

衛 藤 隆

(国立公衆衛生院母性小児衛生学部)

研究目的

昭和60年度から開始されたB型肝炎母子感染防止事業（以下本事業）の実施状況を調査し、本事業の評価を行う際の参考資料とすることを目的とする。

研究方法

全国47都道府県および54の政令市・特別区（以下「自治体」）に調査票を郵送し、各自治体における昭和61年4月1日より12月31日までの期間の本事業に関わる対象者数、各検査の被検者数、各処置の被投与者数もしくは被接種者数等についての回答を得た。返送された調査票を集計し、分析・検討した。また、厚生省児童家庭局母子衛生課により集計された昭和60年6月本事業が開始されてから昭和61年3月31日までの期間の本事業に関する資料（乳児については昭和61年1月からのもの）を用い、今回の調査結果と合わせ、わが国における本事業開始後の実態を検討した。

研究結果

47都道府県の内42道府県(89.4%)から回答があり、54の政令市・特別区の内48市区(88.9%)から回答が得られた。回収率は合わせて89.1%であった。

妊婦に係わる数値は（表1）に示した。表中には示されていないが、今回の調査で妊婦のHBs抗原陽性者数を集計してあった自治体に関してHBs抗原陽性者数と検査実施者の割合は8,194 / 594,148 (1.38%)であった。同じく妊婦のHBe抗原陽性者数が集計されていた自治体においてHBe抗原陽性者数と検査実施者数の割合は2,486 / 9,331 (26.6%)であった。

児に係わる数値は（表2）に示した。表中、抗HBs人免疫グロブリンをHBIG、沈降B型肝炎ワクチンをHBワクチンと表示している。新生児HBs抗原検査実施者数と第1回HBIG被投与者数の差は20名であり、検査実施者数に対する割合は0.84%であった。第3回HBワクチン接種後にHBs抗原・抗体の検査を実施した自治体（表2の注4参照）において第4回目のHBワクチン接種を受けた者の検査実施者数に対する割合は57 / 188 (30.3%)であった。

表1 B型肝炎母子感染防止事業実施状況（妊婦）

	事業開始 ～S.61.3.31 (厚生省) ¹⁾	S.61.4.1 ～12.31 (本調査) ²⁾	事業開始 ～S.61.12.31 (推計) ³⁾
H B s抗原検査 実施者数	702,473	780,701	>1,483,174
H B s抗原 陽性者数	9,582	8,194	>17,776
H B e抗原検査 実施者数	8,860	10,692	>19,552
H B e抗原 陽性者数	1,942	2,486	>4,428

注1：厚生省児童家庭局母子衛生課資料による。データがない自治体が2県1市ある。

注2：①昭和62年2月23日現在未回答でデータがない自治体が5県6市区ある。
②表中集計が11月30日分までの自治体は以下の通り。茨城県、大阪府、堺市。
また、島根県は妊婦H B s抗原検査実施者数のみ11月30日分までの集計。
③兵庫県は妊婦のH B s抗原検査については公費負担でないので表中のH B s
抗原検査実施者数、H B s抗原陽性者数には含まれていない。

注3：1～3月分と4～12月分を加算したもの。未回答分を考慮すると実数はここに示された数値より多くなると推定される。

考 按

本調査は横断的な調査なので、時系列での数値の比較はできないが、1年ないしは1年半の期間の観察値としての意味はあり、わが国で開始された本事業の実態を大まかながら把握できたと考える。妊婦におけるH B s抗原陽性率は既に2%をわって1.38%となっているが、H B s抗原陽性妊婦におけるH B e抗原陽性率はなお26.6%と高率であることがわかった。新生児期のH B s抗原検査とH B I G投与は時間的に近接しているため相互に比較することは可能と思われる。H B I G被投与者数の方が少ない分はH B s抗原が陽性であったため投与できなかったからであると考え、新生児期にすでに感染しているいわゆる早期感染例は0.84%と推定される。効果判定のための第3回ワクチン接種後のH B s抗原・抗体検査を実施し集計されている自治体は5都県7市（東京23区は東京都に含む）のみであるが、これらの自治体のデータでみると、効果判定の検査を実施した者の30.3%が抗体が出現しないため第4回のワクチン接種を受けていることは注目される。

最後に、本調査にあたり協力をいただいた都道府県、政令市、特別区の本事業担当の職員の方々に謝意を表します。

表2 B型肝炎母子感染防止事業実施状況(新生児・乳児)

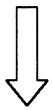
	S. 61. 1. 1 ～3. 31 (厚生省) ¹⁾	S. 61. 4. 1 ～12. 31 (本調査) ²⁾	S61. 1. 1 ～12. 31 (推計) ³⁾
新生児HBs抗原 検査実施者数	606	2,369	>2,975
第1回HBIG 被投与者数	574	2,349	>2,923
乳児HBs抗原 検査実施者数	197	2,219	>2,416
第2回HBIG 被投与者数	154	2,227	>2,381
第1回HBワク チン被接種者数		2,238	>2,238
第2回HBワク チン被接種者数		2,050	>2,050
第3回HBワク チン被接種者数		1,508	>1,508
第3回ワクチン 接種後検査実施数		188 ⁴⁾	
第4回HBワク チン被接種者数		57 ⁴⁾	

注1～注3：表1に同じ

注4：第3回ワクチン後のHBs抗原・抗体検査および抗体陰性の場合の第4回HBワクチン接種を行っているのは、今回の調査で回答があった自治体の中の岩手県、宮城県(仙台市を含む)、東京都(特別区を含む)、横浜市、川崎市、石川県(金沢市を含む)、神戸市、和歌山市、山口県(下関市を含む)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

昭和60年度から開始されたB型肝炎母子感染防止事業(以下本事業)の実施状況を調査し、本事業の評価を行う際の参考資料とすることを目的とする。